

キャラクター名

プレイヤー名

深野 七星(すずしの-ななせ)

シンドローム	エンジェルハイロウ		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
	エンジェルハイロウ					
オプショナル			年齢	18	性別	女
覚醒	生誕	衝動	殺戮		初期侵食率	35%
出自	結社の一員	経験	汚れ仕事		邂逅	主人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	14
感覚	6	0	0			6	(非装備時)	14
精神	2	0	0			2	戦闘移動	19
社会	0	0	1			1	全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			R C	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ライトイーター	白兵	1r+1	3	10		この武器による白兵攻撃の判定+3d 要エンハイエフェクト組み合わせIEP72
	白兵	9r+1		10		CR+舞踏 4
80↑	白兵	9r+1		30		CR+舞踏+灼光 8
~100(Dロイスで灼光指定)	白兵	9r+1		30		CR+舞踏+灼光+リミット 12

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲：	0	合計回避：	0
ライトイーター		ロイス			
ウェポンケース					
		対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス消費
		申し子"セレクトィッド"	P	N	
		両親	P 尊敬	N 劣等感	
		藤崎 弦一	P 誠意	N 疎外感	
			P	N	
			P	N	
			P	N	
			P	N	
			P	N	
		最大財産P:	2	残り財産P：	1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
CR：エンジェルハイロウ	3	2	2	メジャー	-	-	対決	-
効果：組み合わせた判定のC値-LV(下7) EAP129								
光の舞踏	1	1	2	-	武器	-	-	-
効果：【感覚】で判定できる HRP76								
灼光の剣	5	4	4	メジャー	-	単体	対決	80%
効果：攻+[LV*4] 対象:単体時のみ適用 UAP30								
マスヴィジョン	5	5	4	メジャー	-	-	対決	100%
効果：攻+[LV*5] シナリオ3回 EAP26								
リミットブレイク	3	2	4	メジャー	-	-	-	D
効果： エフェクトを使用して行うあらゆる判定に組み合わせ可 「制限:n%」のエフェクトの制限を無視して使用できる LMP117								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「『綺麗』？ ふいふ、ありがとう！ 誰かの美しいところに気付ける、君の心は眩しいね」
「今回のターゲットとは、2年前の作戦で一緒に行動していた〇〇ああ、そうだけ？ 言われてみれば確かに、……いや、ピンとこないな」

◇生い立ち
生まれながらのオーヴァードにして、UGNチルドレン。日本支部に籍を置いている。
両親ともにストライクハウンドに属する戦闘員であり、幼い頃からレネゲイド、そして戦いが当たり前の環境に置かれていた。両親はほとんど任務や訓練に出ずっぱりだったので、多くの時間を家族として触れ合うことはなかったが、代わりに彼らの背中を見て育った。
その生活を当たり前を受け取ると同時に、「外の世界を見てみたい」という純粋な好奇心も併せ持っている。UGN内部での生活を不満に思っているわけではないが、任務帰りの同期などから、手土産として世界の表側の話を聞いているうちに、純粋に興味が湧いてきたからである。
そのため、現在任務のために日本支部を離れ、一時的にA市支部へ出向している日々は、任務外でもそれなりに楽しみを見出しており、自分なりに"日常"とやらを謳歌している。
チルドレンとしては優秀な部類に入り、12歳を超えたあたりから前線に駆り出されている。周囲に同年代のチルドレンが少ない環境下に置かれることが多かったため、自然と言動や思想は大人びていき、また、同時に同年代との間に不和を生じるようになった。それゆえ、成人したエージェントと組まされる機会や、単独での潜入任務などに充てられることが多い。
本人の来歴もあって、将来的には本部入りの話も上がっており、ジャームの掃討作戦や、ダブルクロスの始末など、血なまぐさい任務に呼ばれがち。そのことに不満や思うところはない。戦士として訓練されてきたから、仕事として殺し合いをすることは当然だし、むしろ組織で求められている役割をきちんとこなせるようになったことを誇りに思っている。両親をロールモデルにしているので、いつか自分も彼らと肩を並べて戦いたいという願いもあり、今はその目標を叶えるために、多くの任務をこなして力をつけるべきと判断している。

◇性格/容姿等
ここ数年は、任務のため、A市支部にて活動する都合上、普通の高校に通ってはいるが、それまではUGN施設内で生活が完結していたので、どこか浮世離れた雰囲気がある。しかしながら、持ち前の穏やかで小ざっぱりした性格から、近寄りやすい印象はなく、それなりの交友関係はある。